



5月29日(水)、四国西南地域道路整備促進協議会総会が役場本庁で開催されました。
愛媛・高知両県10市町村の首長や議長、商工会関係者で構成される同協議会は、『四国8の字ネットワーク』の早期整備完了に向け、両県の垣根を超えて団結した活動を進めています。

総会開催にあたり同協議会会長の清水雅文町長は四国西南地域の道路整備状況について触れ、「宿毛内海道路「一本松・御荘」間および「宿毛新港・宿毛和田」間が今年度新規事業化され、愛媛県、高知県の「四国8の字ネットワーク」の未開通区間は全線着手となりました。近い将来、四国西南地域においても本格的な高速交通時代が到来するものと確信している」と強い期待を込めて述べました。



また、気候変動によって近年全国的に激甚化・頻発化する自然災害などを踏まえ、「豪雨災害や南海トラフ地震などの自然災害に備え、安全・安心な医療アクセスを確保する地域住民の『命の道』として、また、地域ブランドを生かした産業振興や豊かな自然を生かした観光振興など地域経済の活性化を図っていく『地方創生の道』として、早期の道路整備が不可欠である」と述べ、関係機関への道路整備促進に関する要望活動を引き続き進めていくことの必要性を示しました。



ふるさとに『命の道』と『地方創生の道』を
令和6年度四国西南地域道路整備促進協議会総会を開催

四国8の字ネットワーク

大規模災害時における交通機能の確保
広域交流や地域間連携の加速化
特産物の高鮮度出荷が可能となり、マーケットを大幅に拡大



宿毛内海道路



■高速道路の整備により、陸の孤島の解消を！
南海トラフ地震発生時には、津波浸水等により、幹線道路(国道56号)が寸断され、陸の孤島が発生する恐れ！

